

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	暮らしネットえん	代表者	小島 美里	法人・事業所の特徴	地域に根ざした事業所を目指している。これまで暮らしてきた関係性を大切にし、利用者の希望に添って生活の継続をしていただけるよう考えている。小規模多機能の特性を活かし、出来る限り柔軟に対応して利用者やご家族を支えている。職員間では情報の共有、互いの質の向上に努めている。民家改修型の建物で、家庭的な雰囲気を感じている。利用者、ボランティア、職員が共に過ごす時間が心地よいと感じられるよう努力している。
事業所名	多機能ホームまどか	管理者	菅 嘉子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	3人	1人	1人	1人	0人	3人	3人	14人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> 事業所自己評価をきちんと伝えるために、通常の運営推進会議以外でまとまった時間を取って事業所が行っている事業内容を丁寧に説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所自己評価の各項目については、スタッフ全員が取り組み、ミーティング様式でまとめを行った。事業所自己評価のためのミーティングは1回のみで開催であったために出席者が少なく改善が必要と思われる。話された内容や結果のまとめは、通常のミーティングや書面にてスタッフ全員に知らせた。 総合的には前回の事業所自己評価で立てた改善計画については、「できている」または「なんとかできている」が多く、改善に近づけた。しかし、更なる質の向上を目指すために、各項目に「次回までの具体的な改善計画」を設定することにした。 運営推進会議以外でまとまった時間をとることは出来なかったが、事業内容は委員の方々に出来る限り丁寧に説明をした。 	<ul style="list-style-type: none"> 「自己評価」自体のフォーマットが非常に分かりにくい内容である。 事業所自己評価の集計数に差異があるのか。(カンファレンスなどは担当していないスタッフは参加者しないため未記入となり、個人チェックの集計数に差異が生じている)。 全員が担当する利用者を持つなど、不可能な計画があった。 全体として、改善計画にできるだけ具体的に期間を定めることが望ましい。 「～したいの実現」について、利用者の入れ替わりの激しい中でも、生活の中で時間をとって本人に聞き、介護職員の情報も反映させながら、1,2ヶ月でプランを見直している。 「言葉による拘束」について、本人にきちんと理由を説明すると伝わると思う。 一般的に、多様な職員がケアを行うとケアプランが徹底できないことがあるが、まどかは努力し 	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価の設問に理解に苦しむスタッフが散見され、各自の解釈に大きな相違が生じた。次回から、設問への解釈を全員で確認して取り組み正確に事業所の事業内容等を伝える。 自己評価をまとめるミーティングへの参加者を増やすため、複数回行なうなど参加する機会を設ける。

			<p>ている。小規模多機能の良いところだ。</p> <ul style="list-style-type: none">・本人に何ができるかをプランに入れ、まどかでの役割を作り、出来る事を奪わないようにしている。・「社会資源」について、なじみの店や配食など必要に応じて把握している。・民生委員との連携は、一般的に協力を得ることが難しいが歴史ある制度なので活用して欲しい。・「運営に関わること」について、介護職員は組織が見えにくいですが、意識すればまどかは自覚しやすい環境だし、実際にできている。・ボランティアをしていて、まどかで利用者が他の方の悪口をいうことがあり、初期のかかわりの難しさを感じる。まどかは家事などができる方が多く、声のかけ方が難しいが職員は良くやっている。・服薬の支援について、介護保険制度の中でのフォローはないが、生活を把握している小規模多機能はフォローしてしまい、多忙になっている。・「情報共有」について、職員はよく利用者の情報を共有している。共通の情報の上でも職員によっては良い意味で視点が変わり、多様性があると思う。・利用する側からして、職員は皆によくわかるような声掛けをしてくれている。	
--	--	--	--	--

B. 事業所の しつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の様子を伝えるために、まどかの見学日を年間の計画に入れる。また、映像を利用するなど伝え方を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議の会場が事業所外のため委員の方々に自事業所を訪れてもらう機会がないので、前回の改善計画を設定し、まどかで利用者と一緒に昼食をとる機会を計画して実施した。6名の申し込みがあり5名の参加があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所は、居心地がいい空間になっていますか？－常に居るわけではでないのわからない ・日中、事業所の門や玄関にカギはかかっていますか？－確認したことがないのでわからない 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進委員の方に事業所の雰囲気や取り組み方を見学していただく機会を設ける（前回の見学日は1回のみだったので、今回は少人数で複数回にする）。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・行事・イベント・研修など、それぞれの内容や、対象となる職種と参加者（利用者・スタッフの職種）を、運営推進会議で伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加した研修・行事・イベントなどを運営推進会議で報告（内容・参加者）した。また、まどか通信に掲載し地域の方々にも幅広く知らせることができた。特に地域の認知症高齢者見守り訓練や防災ふれあいキャンプなどに参加しかかわってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所のスタッフは、地域の行事やイベントに参加していますか？－常にかどうかわからないが参加する時がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・通りに面した掲示板に「まどか」と明示し、相談を承っていることを掲示して地域の方にも事業所が目に入るようにする。
D. 地域に出向いて 本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・行事・イベント・研修など、それぞれの内容や、対象となる職種と参加者（利用者・スタッフの職種）を、運営推進会議で伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの研修・行事・イベントなどの報告（内容・参加者）を行なった。本人を支える取組みとして報告した内容は、独居のゴミ出しや見守り体制作り等があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者を事業所の中だけに閉じ込めていませんか？－多分そのようなことはないと思う ・利用者以外のご近所の心配な方に、事業所はかかわっていますか？－例えば近隣のスーパーの方を気にするなど、ちょっとした関わりがある 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者以外の近所の方への関わりを、引き続き報告していく。 ・利用者の行動を妨げていないことや、地域参加を積極的に行なっている事を運営推進会議等で伝える。
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議で事業所の取り組みを、一層わかりやすく説明していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事例報告など機会があるたびに詳しく説明した。 ・事故報告では、個人情報取り扱い方法でアドバイスがあり実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議では、地域の心配の方等の事例検討が行われていますか？－検討より報告はうけています ・運営推進会議では、事業所の取組みが解かりやすく説明されていますか？－前回事例が提示されたのは、まどかの取組みが具体的に理解できよかったです 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議で、引き続き地域での事例を文書や口頭でも報告し検討していく。
F. 事業所の 防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> ・“まどかの防災計画書”を、運営推進員や家族に渡してお伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・11月の運営推進会議の開催時に資料としてお渡しした。 		<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き防災計画書を運営推進委員や家族に渡し、防災訓練への参加を呼びかけていく。

